令和５年度

横浜市立田奈小学校

学校だより

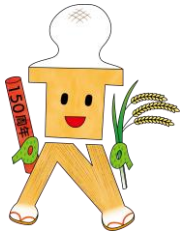
１月号

令和６年１月９日

～豊かで調和のとれた子の育成～

たくましく生きる人　なかよく生きる人

https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tana/



１５０周年キャラクター
もちTaNaくん

2024年・令和6年を迎えて

校長　大原　敦子

あけましておめでとうございます。すっきりと澄み渡る空にくっきりと見えるダイヤモンド富士など、各地で美しい初日の出が見られた 2024年、令和6年のスタートは、暖かな年明けでした。いつも通り、のんびりと元日の朝を迎え、午後は久しぶりに母や息子とも会って楽しい時間を過ごしました。そのような中、飛び込んできた能登半島地震のニュース。そして、翌日の羽田空港での事故のニュース。心が痛む事実と向き合う年明けとなりました。犠牲になられた方々へお悔やみ申し上げます。そして、今も大きな余震が続き、寒さも厳しい中で過ごしていらっしゃる被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。そんな気持ちで過ごしたお正月でした。

そのような中でしたが、１月２日、３日に行われた第 100 回記念箱根駅伝を、テレビの前で応援しました。様々な思いをもって一生懸命に襷をつなぐ選手やチームの皆さんには、毎年胸を打たれます。２年連続大学駅伝３冠を目指す駒澤大学、駒大一強と言われていた中、大会新記録で総合優勝をした青山学院大学。そのほかの大学についても、それぞれの目標があり、いろいろなドラマがあり、だからこそ、応援する人々の心に強く伝わってくるものがあるのだと改めて思います。「沿道からの声援がこんなに力になるのだ」という言葉や「駒澤大学がいたから頑張れた」という言葉も印象に残りました。

第102回全国高校サッカー選手権大会でも、心に残った話がありました。被災した翌日２日に試合を行った石川県代表星稜高校。応援団が会場に来られないという状況で、神奈川県代表の日大藤沢高校をはじめいろいろな高校の選手が、自分たちにできることは何かを考え、チームカラーの黄色が見えるように黄色の袋をユニフォームのようにみんなでかぶったり、久しぶりに声出し応援ができる状況なので、歌ってほしい応援歌を星稜高校に連絡して教えてもらったりして、地元のみんなのために頑張っている星稜高校の選手をスタンドから応援していたということです。当日朝に作成した横断幕も印象的でした。彼らは、SNS を駆使して、ごく短時間でこれだけのことを行っています。それも今の高校生らしい力だと思いました。そして、日大藤沢の選手たちは、自分たちに注目が集まりがちだが、いろいろな高校がみんなで力を合わせて行ったことだと伝えている様子も、すごく素敵だなと思いました。

今年は辰年です。縁起の良い、ぐんぐん上昇するなどを耳にします。また、社会が動く年ということも言われています。子どもたちは、新しい年を迎えてどんな目標を立てるのでしょう。上記の選手たちの話のように「まわりの人との関わりの意味」「この状況で、今、自分は何ができるか」「どんな方法ならばできるか」などを、自分なりに考えていけるような、そんな力を付けた田奈っ子を目指してほしいなと思います。そして、私たち職員一同、「ひと」との関わりの価値を感じ、自分で考え選択していける力を育てていけるように尽力いたします。今年もどうぞよろしくお願いいたします。